



- 参戦レース : 世界耐久選手権第2戦ルマン24時間耐久ロードレース
- サーキット : ブガッティサーキット / フランス
- 開催日 : 2017年4月15日(土)~16日(日)
- チーム名 : EVA RT Webike TRICKSTAR
- ライダー : エルワン・ニゴン
出口修
ジュリアン・ミレット
- 監督 : 鶴田竜二
- 結果 : 予選13位 決勝12位

4月14日フランス、ブガッティサーキットで世界耐久選手権第2戦「ルマン24時間耐久」の予選が行われました。「エヴァ RT Webike TRICKSTAR」は、プレテストから、さらなるピットワーク短縮のためクイックシステムを導入、プレテストから使用しセットアップを詰めてきましたが、12日のフリー走行で出口、13日とジュリアンが転倒してしまいます。その原因が、その新システムとマシンマッチングにあると判断、元の仕様に戻して、最終予選に挑みました。幸い、ライダーに怪我はなく予選に挑み、3人の平均タイムで13番手となりました。願っていた順位ではありませんが、24時間という長い戦いに、予選グリッドは、スプリントレースほど重要ではなく、挽回のチャンスは十分にあることを知っています。粘りつよく、挽回していく諦めない走りは、トリックスターの最も得意なこと、チェッカーが振られた時、どのポジションにいることになるのか、決勝の戦いを見守って頂きたいと思っています。

監督 鶴田竜二

「プレテストからクイックシステムを使い、走行してきましたが、狙ったような動きではなく、ライディングに影響してしまい転倒につながってしまったと考えました。13日のナイトセッションから、開幕戦ボルドール24時間の仕様に戻し走行を再開しました。ライダーたちの反応も、こちらの方がよく、アベレージも上がっています。セッティングも決まりました。スタッフ、ライダー共、集中力を切らす事なく、24時間後のチェッカーを目指します」

ライダー 出口修

「新システムでうまくバランスを掴むことができずにトラブルが続きました。鶴田監督が元の仕様に戻すことを決断、ほとんど走れてなく、出遅れてしまいましたが、ここから、辛抱つよく追いついていきたいと思っています。13年に初めて走ったルマンの時よりも、レベルは確実に上がっていると思いますし、それだけ注目度が上がっていることを実感しています。その中で、しっかりとポイントを獲得してシリーズチャンピオンに近づく走りがしたい」

ライダー エルワン・ニゴン

「スタートライダーを務めます。ライダー交代時には5番手で渡したい。そこからは、しっかり耐久の走りを貫き、ミスなく走りきれば、結果はついて来るとと思っています。出口選手とは鈴鹿

8時間耐久、ボルドールとチームメイトとして戦っていますし、ジュリアンとは10年前に、ルマン24時間耐久に初挑戦した時に一緒に走ったライダーで、そこからの付き合いです。安定感のある走りをしてくれるので、信頼しています。3人の力を合わせて最高の結果を引き寄せたい」

ライダー ジュリアン・ミレット

「走り始めはトラブルが続きましたが、現在はものすごくいい状態になり、自信を持って挑めます。素晴らしいチームで走れることを感謝しています。エルワンとは昔からの友人で、彼のセットアップ能力が優れていることは良く知っているので、信頼しています。出口選手の素晴らしさも感じているので、きっと、いいレースができると思います。フランス人にとってルマン24時間はとても特別なレース、そこに参加できることにも感謝しています。」

ルマン24時間耐久レースは、15日現地時間、午後3時にスタートが切られ、翌16日の午後3時にチェッカー。

4月15日～16日、フランス、ブガッティサーキットで世界耐久選手権第2戦「ルマン24時間耐久」のスタートが切られました。「エヴァ RT Webike TRICKSTAR」はギリギリまでマシンの調整を行いグリッドに着きました。スタートライダーはエルワン・ニゴン、ポジションアップし出口にマシンを渡します。出口からジュリアンへと順調に周回を重ね、エルワンにライダー交代。エルワンは無理のないペースで5番手までポジションアップしチェッカーを目指していました。

ボルドール24時間耐久で3位となり表彰台を獲得した原動力となったエルワン、今ではチームに欠かせないライダーとしてチームを支える存在です。2015年にはスズキエンデュランスチームから参戦しルマン24時間の覇者となっています。

そのエルワンの前にラインを不自然に変更するライダーが出現、エルワンは避けきれずに転倒、グラベルに投げ出されます。ルマン24時間耐久は、ライダーにとって夢の舞台、ここを走りたいと願うライダーたちがひしめく世界です。初参戦ライダーも多く、その全てのライダーが、安心してバトルができる相手とは限りません。そのことはエルワンは十二分に知っていました。それでも、無謀とも思える走りをするライダーを避けることは、あのエルワンでもできなかったのです。

モニターで転倒を確認したピットでは、すぐに修復の準備を整えます。エルワンは懸命にピットまで戻りました。スタッフは迅速にマシンを修復、カウルを変え、傷ついたパーツを付け替える作業を7分で終了、出口がコースへと飛び出して行きました。その時のポジションは47番手でした。

エルワンは転倒時に肋骨を打ち、折れてしまったことを自覚していましたが、走り続ける意志は変わりませんでした。強くテーピングした身体でマシンにまたがり、トップ争いするライダーたちと変わらぬタイムで周回、それは、出口も、ジュリアンも同じです。驚異的な追い上げで10位まで挽回、その勢いは止まらないように見えました。残り2時間で、どこまで追い上げることができるのか注目を集めていました。その時、今度は出口の転倒がモニターに映し出されました。出口は、すぐに起き上がり、ピットに戻り、マシン修復を終えると代わってジュリアンがコースへと飛び出し、出口、エルワン、ジュリアンとチェッカーを目指しました。最後まで諦めない走りをつら抜き最終順位は12位となりました。

出口の転倒は他車にぶつけられてのもので鶴田監督は審議を申請しました。その目的は罰することではなく、よりクリーンで安全なレースをしてもらうためです。その願いは、相手にも伝わり、誠意ある謝罪がありました。転倒してしまった事実を消すことはできませんが、出口は気持ちを切り替えました。エルワンは痛みをこらえながら、自分の与えられた時間を走りきりました。そのタイムは怪我をする以前と変わらないもので、ライバルたちは、エルワンが痛手を負ったことを気がついてはいないはずで、スタッフたちはエルワンの頑張りに支えられました。ジュリアンは、ミスなく安定した走りで、エルワン、出口を助けてくれました。願っていた結果ではありませんが、59台が出走し37台が完走という過酷なレースを戦いきることができたことを誇りとします。

ライダー エルワン・ニゴン

「バトルの最中に周回遅れが、急に進路を変えてきて避けることができませんでした。転倒した時に肋骨が折れていることに気がつきましたがテーピングをして、痛み止めを飲み走りました。ですが、痛み止めが効いているのは4ラップ目くらいまででした。それでも、自分の転倒で、チームメイトやスタッフに迷惑をかけてしまったので、自分が挽回しなければと思い走り続けました。耐久にとってチェッカーは特別なものです。走りきらなければならないと思っていました。今回のレースのようにシリーズチャンピオンも諦めずに戦いたいと思います」

ライダー ジュリアン・ミレット

「10年前にエルワンとルマン24時間耐久に参戦して、また、素晴らしいチームで走るチャンスをもたらしたことをとても感謝しています。結果は望んでいたものではないし、とても残念だけど、常に上のポジションを狙って、その強い気持ちをキープすることができました。もっと、走りこむ時間があったら、いいパフォーマンスを見せることができたと思います。ぜひ、鈴鹿8時間耐久に参戦するのが夢なのでチャレンジしたいと思っています」

ライダー 出口修

「ライダーの負担を少なくするために導入してくれた新システムが、その良さを引き出すためにトライ&エラーで、スタッフはずっと作業をし続けていました。直前でボルドール仕様に戻して、そこからは、いい状況が作れたと思うのですが、2度の転倒があり、残念な結果になりました。ですが、収穫もたくさんあったレースでした。2年前にルマンに来た時は、チャレンジャーでしたが、ボルドール24時間耐久で3位になることができて、周りの注目も感じましたし、それに恥じない走りをしたいという気持ちにもなれました。シーズンは、まだ、終わっていないので、挽回していきます」

監督 鶴田竜二

「序盤に転倒があり、そこから追い上げ、トップ10まで追い上げることができたのに、再び転倒があり、緊張感を保つのが難しい中で、みんなが最後まで諦めずに戦いきてくれたことを嬉しく思います。新しく加わってくれたジュリアンはミスのない安定した走りをしてくれました。エルワンは怪我があり、無理をさせたくない思いもあり、休むように勧めても、走るという強い意志は変わりませんでした。出口は変わらぬ走りでチームを支えてくれました。アクシデントがなければ、3人のパフォーマンスで、上位に食い込むことができたことは明らかな事実なので、次の大会につなげたいと思います。ご心配、ご声援をありがとうございました」